

## 創立50周年記念行事を終えて

会長 野口 駿 雄

【本記事は、去る6月26日に行いました研究会創立50周年記念行事に参加して頂けなかった会員の皆様に、当日の模様をお知らせするために記載いたしました。ご了承ください。】

去る6月26日（金）に研究会創立50周年記念事業の一環として、13時より特別講演会を、17時30分より記念式典および祝賀会を開催致しましたところ、大変ご多忙の折にも関わりませぬ多数の皆様にご参加頂き厚く御礼を申し上げます。記念式典および祝賀会におきましては、ご来賓として、

倉智春吉 様 関西アルマイト工業協同組合 理事長  
 佐藤信幸 様 一般社団法人軽金属製品協会 会長 二瓶 亮 様 ご代理 専務理事  
 菅原善穂 様 一般社団法人軽金属製品協会 大阪支部長  
 長井ひろこ 様 カロス出版株式会社 代表取締役 山田盛雄 様 ご代理  
 平藤哲司 様 一般社団法人表面技術協会 関西支部長  
 藤田安彦 様 藤田商事株式会社 代表取締役・研究会創立発起人代表  
 藤原 裕 様 電気鍍金研究会 会長  
 吉村敏子 様 前会長 故吉村長蔵先生令夫人  
 吉村了勇 様 故吉村長蔵先生ご令息 京都府立医科大学病院長

の皆様にご臨席賜りました。また、特別講演会でご講演頂きました次の4名の講師の皆様、

菊池 哲 様 一般社団法人軽金属製品協会監事  
 株式会社アルミ表面技術研究所 代表取締役  
 難波利三 様 直木賞作家  
 中岸 豊 様 奥野製薬株式会社 最高技術顧問 グローバル化推進担当  
 松尾 守 様 元古河スカイ株式会社 常務取締役

（以上50音順）

（難波先生はご講演後所用のため退出されました）、会員の皆様を含め約70名に至る多数の皆様にご参加賜り、お蔭をもちまして盛会裡に終えることが出来ました。重ねてお礼を申し上げます。

平成19年10月に、本研究会発起人のお一人でもあり、初代で前会長吉村長蔵先生が逝去された後、本会を引き継がせて頂きました。当時、会社会員および個人会員の殆どが創立当初からの会員の皆様であり、引き続き研究会を支えて来て頂き今日に至っております。

さて、研究会の創立当時の状況につきまして、第1号会誌（近畿アルミニウム表面処理研究会会報）、また、前会長 故吉村長蔵先生が各記念号に書き残された内容や残されていた当時の資料を参考にして、これを機会に以下のように纏めさせて頂きました。

本研究会は、昭和40年（1965年）7月17日に創立されました。当時、東京には「アルミニウム表面処理研究会」（現 一般社団法人 表面技術協会 ライトメタル表面技術部会）がありましたが、関西にはアルミニウムの表面処理に関連した研究団体が無かったために、関西で研究団体を立ち上げ、業界の発展に尽くそうとの趣旨で、次の7名の方（50音順）が発起人として研究会

の創立にご尽力頂いたと伺っております。

青木 司 様 株式会社勝光社（当時）  
 倉智春吉 様 株式会社日本電気化学工業所 社長、  
 成田俊勇 様 二十一世紀社 社主（当時）  
 福村和明 様 福村電化工芸株式会社 社長、  
 藤田安彦 様 藤田商事株式会社 社長  
 水田和夫 様 大阪府立工業奨励館（当時）  
 吉村長蔵 様 近畿大学理工学部教授（当時）

大阪で立ち上げた「アルミニウム表面処理研究会」は、東京と同じ名称に出来ないため、「大阪」の研究会とするのか、また、「近畿」の研究会にするのかなど、会員を募集する際に、大阪のみに留めるのか、近畿全般にするのか、関西にするのかなど相談されたようであります。しかし、「大阪」にすると近隣の兵庫県や京都市にも多くの関連会社があることより、また、「関西」や「西日本」では範囲が広すぎる等の考えから、「近畿」という名称が冠せられたと聞いております。

発会式の様子につきましては、昭和40年10月1日に発行されました「近畿アルミニウム表面処理研究会会報」に『当研究会設立総会開く』と題して、「近畿アルミニウム表面処理研究会の設立総会は7月17日（土）午後1時30分より、近畿大学理工学部応用化学科において開いた。この日の出席者は約40名で、近畿大学理工学部応用化学科教授吉村長蔵氏の発起人挨拶、設立趣旨説明、行事予定報告等があり、大阪大学名誉教授多賀谷正義氏の《防蝕と表面処理について》と近畿大学理工学部原子炉工学科教授小久保定次郎氏の《原子炉とアルミ材》についての特別講演があり、総会后、教育用原子炉を見学した。その後、学内の食堂に於いて懇親会を行い色々意見が交換され、午後6時頃散会した。」と記されています。また、簡単な会則も記載されていて、会則の第3条には、「本会は近畿地区アルミニウム関連業界の個人並びに法人を正会員とする」（現会則 第3章・第5条）とあります。また、第2条には、「会員相互の意見交換並びに技術の開発向上を目的とする。」（現会則 第2章・第3条）とあります。即ち、広くは産・官・学が連携して研究を行い、アルマイト関連技術の開発・向上に努めること。更には、企業間の交流と親睦を図ることなどに重点を置きながら、可能な限り情報の交換をも行うことを目的とした意図があったと理解致しております。

吉村前会長は、創立時の心境を創立十五周年記念号での挨拶文で、「発起人としまして、筆者の一番心配していました事は、会の持続性についてでありました。当時、発起人は7人いましたが営利に鋭い関西人を、このような純然たる学術団体に包含して運営して行く危惧を夫々感じていました。しかし、研究会を設立し始動し始めると、その心配が全く無用であることが判りました。各社とも熱心に討論会、講演会、実習会に参加され、自社の技術の向上に熱心に取り組みられるようになりました。東京の金表本部のアルミニウム表面処理研究会の福島氏を始めとするメンバーの方々や、軽金属製品協会関西支部長であった吉津氏などの後援により、年を経る毎に盛会になり爾後順調に成長して参りました。」と述べておられます。

即ち、研究会創立当初より、座談会や放談会、講演会、講習会など、またそれぞれの後に行われた懇親会にも多くの会員が参加されました。この頃の行事は、多い時で年間10回程度開催されていました。工場見学会は、昭和44年（1969年）が最初であり、更に、勉強会の一環として、企業間の交流と親睦を兼ねた一泊旅行の夏期セミナーが行われたのもこの年からでありました。また、会誌の発行は、不定期でありましたが、昭和49年（1974年）より2ヶ月に1回の発行となり、

現在は奇数月に1回発行致しております。

研究会創立当初は経済成長の時期にあたり、多くの会社（約50社）や個人（約60名）が会員として入会して頂きましたが、バブルの崩壊、オイルショック、また、最近では2008年のリーマンショックなどにより経済が大きく冷え込み、現在の会員数は当初の約40%弱になりました。しかし、その殆どは、先に述べましたように、創立当初に入会して頂いた会社会員および個人会員の皆様であります。今日、創立50周年を迎えることが出来たのも、半世紀近くに亘り研究会をご支援頂いたこれら会員の皆様のお陰と深く感謝致しております。また、一般社団法人軽金属製品協会本部および大阪支部、関西アルマイト協議会（現 関西アルマイト工業協同組合）、一般社団法人金属表面技術協会関西支部（現、表面技術協会関西支部）など、記念式典・祝賀会当日にご来賓としてご臨席賜りました関連団体及び関係各位からも弛まざるご後援とご教導を賜わったことも大きな一因と感謝致しております。

現在、研究会が行っております行事は、各学協会で開催されている行事に近く、本来の目的より少し外れた感があり、関係各位から行事や会誌の内容に関するご指摘やご意見も伺っております。この50周年を機に今一度初心に帰り、研究会の今後の行事について、本年下半期より、委員会において審議を重ねて頂き、従来行ってきました行事で残すべきものは残し、改めるべきものは改め、前記会則第2条に定められた内容に沿って一定の方針を定めて頂く所存であります。会員の皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。また、委員を派遣して頂いております会社には引き続きご負担をお掛けすることになりますが、何卒、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

創立50周年記念事業は、8月末の発行を目標に準備を進めております「50周年記念特別号」の発行を以ってすべてが終了いたします。

遅くなりましたが、大変ご多忙の中、ご寄稿頂きました執筆者の皆様には厚く御礼を申し上げます。

経済状態もやっと回復の兆しが見えてきたようであります。会員の皆様は勿論のこと関係各位の益々のご発展を祈念致しております。

最後になりましたが、本記念事業を行うに当たり、ご協力を賜りました会員の皆様に心よりお礼を申し上げます。また、本研究会の事務局長として、職務多忙の中永年に亘り研究会行事に関して多大なる努力を払って頂いております藤野隆由准教授を初め、研究室の在学生及び卒業生の皆様に感謝の意を表します。